

令和7年度 政策討論会 第2分科会（第3回）要点記録

- ・日時 … 2025年7月28日(月) 午前10時から
- ・場所 … 第2理事者控室
- ・会議時間 … 10:00 ~ 11:09
- ・出席者 … 永野 紗代(座長)
河合 達雄(副座長)
藤原 豊和
田中 市子
宇野 真悟
烏野 隆生
栗原 佳一
米田 貴志 (座長、副座長以下は議席番号順)

・議事内容

(1) テーマ「学校給食で地産地消を進めるには」について下記の理事者を招聘。
事前に提出していた質問事項の回答と補足資料について説明を受けた。

①学校給食課 ②農林水産課

(2) ①②の理事者に対して質疑応答

(3) 理事者の説明及び質疑に対する応答を踏まえ、課題等を整理するため、意見を出し合った。

※発言要旨は別紙(順不同)

・決定事項

(1) 次回の政策討論会

- ・次回討論会の日時場所は8月12日(火)10時~<議会会議室>に於いて開催
- ・テーマについての課題等意見交換し少しずつまとめに進んで行く予定。

【 発言要旨 】 (順不同)

①藤原議員

地産地消を進める意義、目的について食育というのは何となくイメージはあるものの何故食育を進めるべきか？という問いに対して言語化できている人は多くないが本市で地産地消を推進するのであれば本市にとって地産地消が何故良いのか？を言語化できる取組や目標も具体化しやすくなると考える。

②田中議員

担当課の取組や地産地消を拡大できるベースがあることが確認でき本市の魅力となる可能性を感じたが事業者など関係者との目的の共有が課題と思われる。その為のしくみづくりやそこに専念できる人の配置が必要と考える。地産地消や食育は国も推進していることであり活用できる制度もあるのではないか。

③烏野議員

生産者と学校給食課の担当者との連携が不十分であると思う。生産者と学校給食課とを調整する為のコーディネーターが必要と考える。

④米田議員

目的は食育でも良いが現段階では取組む目的が漠然である。
学校給食課はアレルギー対応も含め安価でありながら栄養価の高い給食を企画し提供してくれている。
一方で農林水産課は本市で展開されている農林水産品を把握し熟知されていると思われる。
学校給食における地産地消を進めるにあたりブッキングしていないことが見えただのに対してこれら地産地消で食育を進めるチームとして機能できれば良いのではないか。
それには JA や漁連などの情報収集をして主菜、副菜で献立し年間の取組み計画を作成することも肝要と考える。
そのように取組んで行くことで地産地消に取組む本市の状況が誰の目にも見えるようになるのではないか。
また年々学校給食に占める割合も計画的に増やせることにもなるのではないか。
以上それらについて協議できるテーブルを設置することが必要と考える。
本市学校給食において地産地消を進めるにあたりその量や種類が増えていくことも大切と考えるが様々な農水事業者等の取組を記録し残して行くことも大事であり振り返ることができるし積み重ねれば実績となり協力してくれる農水事業者には本市子ども達の育成に地元産品で貢献できることになり更に本市の自慢にもなるし PR にも繋がって行くことで好循環になり得るのではないだろうか。

⑤河合議員

本市の学校給食は我々も実際食べて美味しいと思った。

少し量的に少ないように思ったが低学年には適量であり高学年は御代わりも自由と聞いたのであとは地産地消をどう進めるかで食育の意義が理解できるのではないかな。

⑥宇野議員

本市の学校給食における米飯は、JA いずみのの岸和田市産エコ農業米と、公益財団法人大阪府学校給食会の米を利用しているが、エコ米が 424 円/kg に対し、財団米が 571 円/kg となっており、財団米の方が高くなっている。

エコ米は、農薬等を減らした米であり、JA の買い取り金額が通常のコメよりも高いはずで、以前はエコ米の方が高かったが、近年納入値段が逆転している。

米等基幹物資について、公益財団法人大阪府学校給食会から供給を受けているが、学校給食に必要な数が十分確保できるのであれば、財団米を利用せずに、市内の事業者の米を市が直接取引できるということである。

学校給食で地場産品を提供した際には、食育の観点からも子どもたちに対して周知することが重要であると考えますが、本市においては、献立表、給食だよりへの記載、給食時の放送などで周知を行っている。